Windomの解答速報 昭和大学(医)Ⅰ期 英語

[1]
1. B　2. D　3. A　4. C　5. C　6. A　7. C　8. D　9. B　10. D　11. C　12. B　13. D　14. C
15. B

[2]
1. D – F – C – G – E
2. (I) D　(II) D　(III) B
3. (a) 解答不可。　(多分 A を exploded と間違えたのではないかと思われる)
(b) A　(c) B　(d) B

[3]
1. (I) B　(II) B　(III) D
2. (ア)　to　(イ)　in　(ウ) with　(エ) in　(オ) that
3. 科学者たちがかつて効果的になるために偽薬であることを隠すことの重要性について信じていたすべてのことに基づくとしたら、このような効能のないことを明らかにした偽薬剤は、痛み、疲労、頭痛や他の症状を緩和するはずがない。しかし、かなりの数の症例で、そのような偽薬は実際には効果がある。
4. 2 番目：unexpected　4 番目：has　8 番目：interested
5. fluctuate
6. 患者に処方された薬が、偽薬か実薬かを知らせないでおくこと。
7. ダーキン氏は、3 日間、カルダモンの香りをかいでから鎮痛剤のオピオイドのカプセルを摂取することを求められた。3 日後に、その同じ香りをかいだ後、オピドイドの入っていないカプセルを摂取するように求められた。ダーキン氏の脳はその違いを認識することがなく、偽薬でも効果が見られた。脳に偽薬の効果を生み出させる訓練は成功した。

講評：

例年と同じく、語彙・語法・文法系の大問 1 題 (小問 15 題)と長文の大問 2 題の計 3 題であった。長文の記述問題では、いつもの和訳と内容説明の他に、5 つの空所に単語を書かせる問題が出された。長文の内容はわかり易く、設問にも無理なものはなかった。レベル的には、平年並みで、時間的に足りないということもなかったと思う。